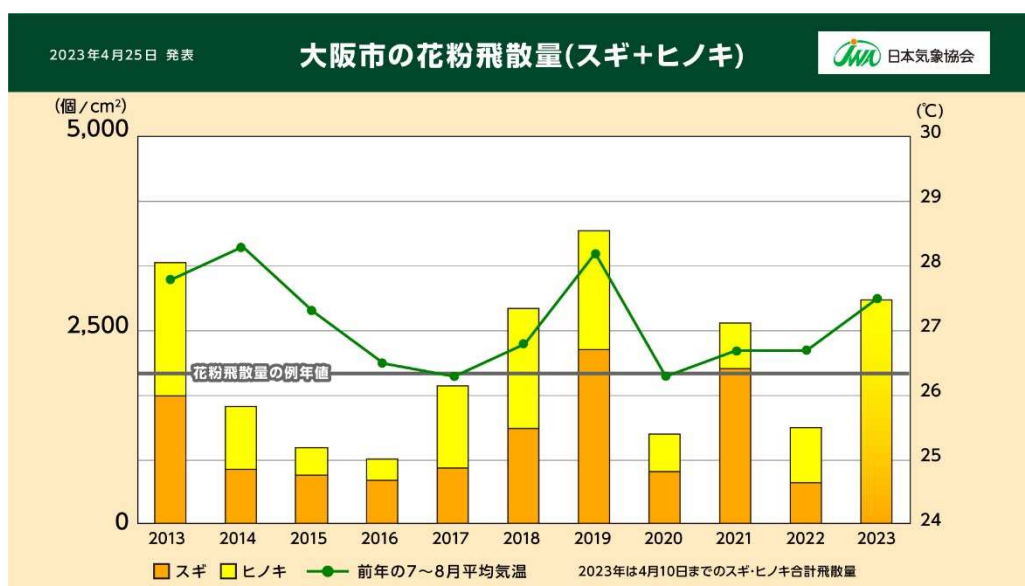
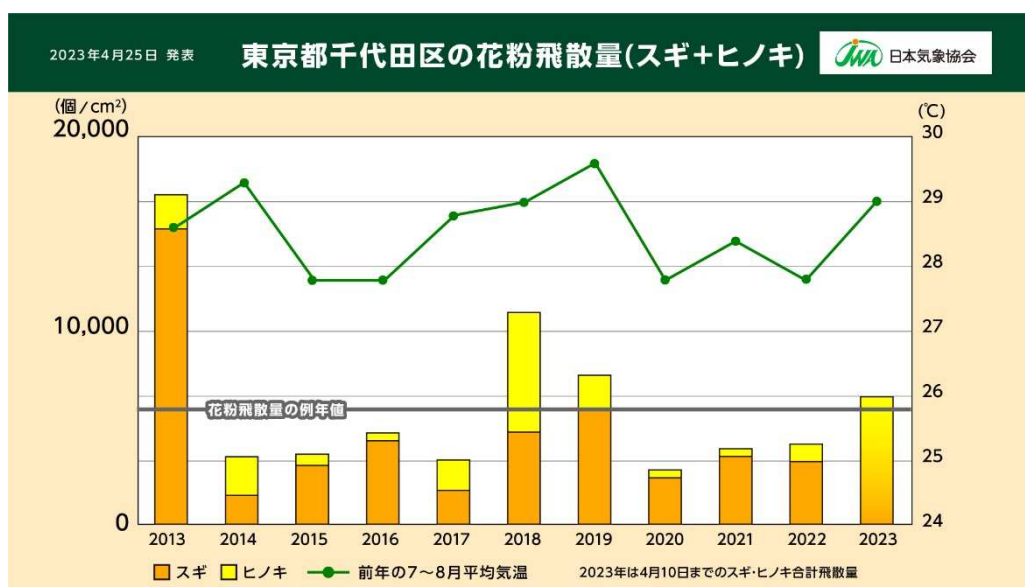


2023年4月25日
一般財団法人 日本気象協会

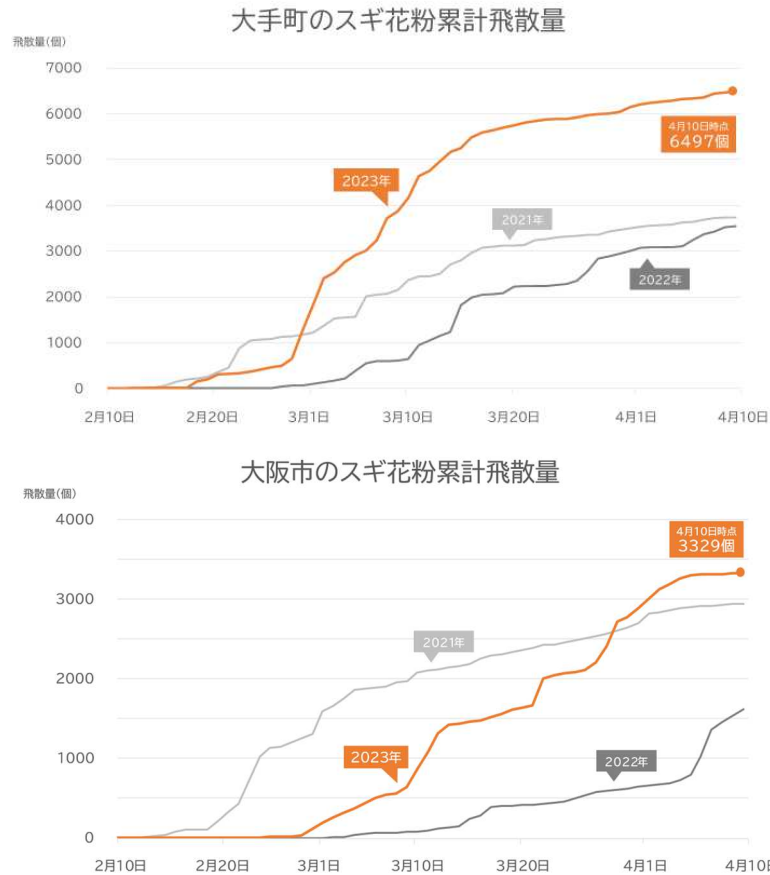
2023年シーズン スギ/ヒノキ花粉の飛散量（速報） ～過去3年で最も多い飛散を観測、東京は4月末で終了見込み～

1. 2023年シーズンの花粉飛散状況まとめ（例年比）

2023年のスギ・ヒノキ花粉は、東京、大阪どちらも過去3年で最も多く飛散し、現時点(4月10日まで)の飛散量が、既に例年値（過去10年の平均値）を超えています。2022年と比較しても東京では約1.8倍、大阪では2倍以上となり、大量飛散となりました。



2. 東京と大阪における過去 3 年間のスギ花粉累計飛散量の比較



3. 2023 年シーズンのこれまでの振り返り ※カッコ内の日付は 2022 年のデータ

	飛散開始日		ピーク期間	総飛散量 ※4月10日まで
	スギ	ヒノキ	スギ	スギ+ヒノキ計
東京	2月11日 (2月25日)	3月10日 (3月15日)	18日間 2月27日~3月16日	6497.5 個 (2022年同時期比較 183%)
大阪	2月18日 (3月2日)	3月16日 (3月25日)	14日間 2月28日~3月13日	3329.9 個 (2022年同時期比較 205%)

スギの花芽形成に適した気象条件は前年の夏前半の天候が「高温・多照・少雨」となることです。2022年の夏は前半に「高温・多照・少雨」となったことで、スギの花芽形成が促されました。さらに、過去3年間（2020年～2022年）はスギの飛散量が例年並みか少なかったことで、スギの木が花芽形成に必要なエネルギーを蓄えていたことも重なりました。また、12月下旬から年明けにかけて、西日本や東日本は寒気の影響を受け、平年より気温が低くなり、花芽はしっかりと休眠ができたと考えられます。

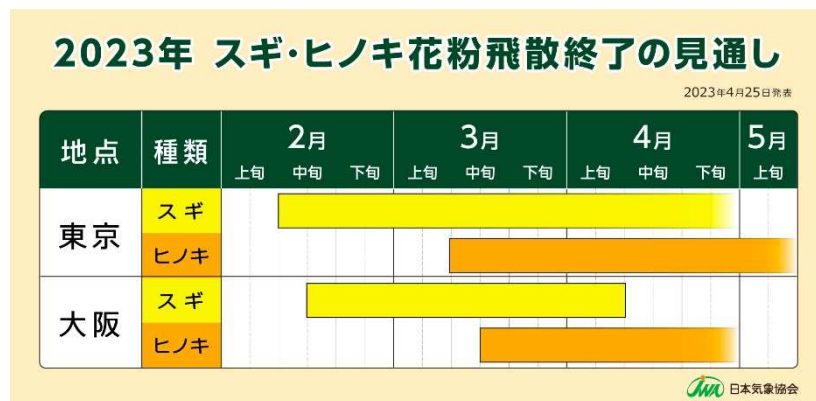
2月に入ると、九州を始め各地でスギ花粉の飛散が始まりました。飛散開始が遅かった22年と比べると、10日から2週間ほど早い飛散開始となりました。下旬になると、九州から関東までの広い範囲でスギ花粉がピーク入りし、東京では2月28日から3日間連続で500個/cm³以上のスギ花粉を観測し、大量飛散となりました。大阪でも2月28日から2週間ほどスギ花粉のピークが継続しました。



そして3月に入ると、九州地方からヒノキ花粉の飛散開始が確認されました。またたく間に、ヒノキ花粉の飛散も各地で広がり、中旬から下旬にはピーク入りした地域が多くありました。

4. 飛散終了時期の見通し

スギ花粉について、東京では4月に入って飛散量が少なくなってきたおり、4月末までに終了する見込みです。大阪では、4月9日に飛散終了となりました。ヒノキ花粉については、東京では5月の大型連休あたりまで断続的に飛散する見通しですが、大阪では4月末までには終了するでしょう。また、4月下旬からシラカバ花粉が飛散開始となる北海道では、5月半ばまで飛散が続く見込みです。



用語の説明

飛散開始日	: 1 cm ² あたり1個以上の花粉を2日連続して観測した場合の最初の日
ピーク開始（終了）日	: 【スギ花粉】 2日以上連続で 50.0 個/cm² 花粉が観測された最初（最後）の日 : 【ヒノキ花粉】 2日以上連続で 30.0 個/cm² 花粉が観測された最初（最後）の日
飛散終了日	: 1 cm ² あたりの飛散数0個が3日以上連続した場合の最初の日の前日

少ない	: 1 cm ² あたり10個未満
やや多い	: 1 cm ² あたり10～30個
多い	: 1 cm ² あたり30～50個
非常に多い	: 1 cm ² あたり50個以上